

事業の背景・目的

京北地域の里山ならではの豊かな自然環境を活用した体験機会を創出し、中山間地域の住民に加えて市街地等都市部の住民の生物多様性保全への関心を高めるとともに、中山間地域と都市部との交流を促進することにより、里山における地域経済の活性化を目指す。また、環境評価・調査も実施し、自然環境の再評価を通じて中山間地域の新たな魅力創出にも取り組む。京北地域には、希少な動植物が多く見られることはないが、都市部では見られない生物が豊かに生息しており、このような普遍的な生物多様性が今後も失われないよう継続的な取組を行う。

事業の内容

事業ア 京北地域定期生物相調査

- ・4回の調査を複数地点で実施し、100名以上が参加
- ・約110種の生物の生息を確認
- ・調査には専門家や研究者も協力し、学術的な知識が伝わるよう工夫



事業イ カブトムシ・クワガタ 飼育、昆虫食開発事業

- ・水田で昆虫食用のイナゴの捕獲体験を実施
- ・イナゴと地元野菜を使用した昆虫食メニュー（かき揚げ、炒め物）の開発を行い、参加者との試食会を実施
- ・幼虫飼育用のコンポストを設置

事業ウ 手作り魚道作成事業

- ・魚道作成に適切な場所の調査を実施
- ・調査結果を踏まえ、専門家との議論を実施
- ・希少な魚類の生息が明らかになったものの、環境悪化の可能性も考えられるため、想定していた魚道作成は見送り、新たな候補地の探索を当初より拡大して実施

得られた成果

1年間の事業を通して、約110種の生物の生息を確認でき、またRDB掲載種の生息も新たに判明した。各事業でのイベントに参加した参加者からのアンケートからは、調査に参加したことで生物多様性への関心の高まりが見られており、何度も参加される方もいた。家族連れの参加者が多かったが、イベント内で実施した生物に関する講義等では、子どもたちだけではなく保護者も真剣に耳を傾け、専門家や研究者に質問するといった積極的な姿勢が確認された。生物相調査及びイベントを通じて115名の方が京北地域へと足を運び、調査後には各自が生物への関心を高めたことにより、交流人口の増加、地域経済への貢献、生物多様性の保全・再生への波及効果が生まれたと考えられる。反響の大きかった調査等は次年度も継続し、加えて、事業の成果を発信する方法等の検討を行い、京北地域へ足を運ぶことができない都市部の方々に対する生物多様性保全の魅力の伝搬や、同様の課題を持つ他の里山においても参考事例となるような事業となることを目指して取り組む。また、農林業や製造業等との連携を行い、持続可能な取り組みとなるようさらなる関係性の構築にも努めていく。